
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2010年第48週
(11月29日～12月5日)

- * 2010年12月8日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「RSウイルス感染症」も掲載しています。

平成22(2010)年12月9日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2010年48週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		45週	46週	47週	48週		48週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病 ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							2
	結核	82	70	61	60	3,828	318	23,955
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1 鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ					2		11
	細菌性赤痢		2		3	83	3	220
	腸管出血性大腸菌感染症	2	3	3	2	332	31	4,028
	腸チフス	1	1			12		30
	パラチフス					5	1	21
四類	E型肝炎					8		56
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	3		1		45	3	333
	エキノкокクス症					1		11
	黄熱							
	オウム病						1	10
	オムスク出血熱							
	回帰熱							1
	キャサナル森林病							
	Q熱							2
	狂犬病							
	コクシジオイデス症		1			1		1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病			5		10	42	254
	デング熱	2			3	68	3	235
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニバウイルス感染症							
	日本紅斑熱					1	1	116
	日本脳炎							4
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
マラリア		2			28	2	70	
野兎病								
ライム病					1		12	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽					1		3	
レジオネラ症	2	3	2		53	4	682	
レプトスピラ症					2	1	22	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		45週	46週	47週	48週	年累計	48週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	3	3		3	160	10	769
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	1		1	1	44	1	194
	急性脳炎 *2					14	1	215
	クリプトスポリジウム症					3		16
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1		13	2	148
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	19	2	114
	後天性免疫不全症候群	11	7	5	6	459	14	1,376
	ジアルジア症					13	1	77
	髄膜炎菌性髄膜炎							7
	先天性風しん症候群							
	梅毒	4	1	4	1	158	6	562
	破傷風					5	3	98
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			2	1	15	2	106
	風しん				1	12	2	81
麻しん		1	1	1	69	2	428	
新型※	新型インフルエンザ *3	—	—	—	—	—	—	
2010/12/8集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※ 新型インフルエンザ等感染症

*3 2009年4月28日に指定された。現時点では届出不要。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 60件 肺結核39件、その他の結核20件、肺結核及びその他の結核1件で、推定感染地は国内56件、タイ2件、インド1件、ネパール1件、年齢は5歳未満3件、10歳代1件、20歳代9件、30歳代10件、40歳代7件、50歳代6件、60歳代6件、70歳代9件、80歳代8件、90歳以上1件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 3件 菌種はフレキシネル1件、ソンネ2件。推定感染地は国内1件、エジプト1件、タンザニア1件で、推定感染経路は飲食物による経口感染2件、その他(不明)1件であった。

腸管出血性大腸菌感染症 2件 どちらも患者。血清型・毒素型はO157(VT1)1件、O157(VT2)1件で、年齢は20歳代1件、40歳代1件であった。

〈四類感染症〉

デング熱 3件 血清型は2型1件、不明2件で、推定感染地はベトナム1件、インド1件、パキスタン1件である。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 3件 腸管アメーバ症2件、腸管及び腸管外アメーバ症1件。推定感染地は国内1件、国外(中国)1件、国内及び国外1件で、推定感染経路は飲食物による経口感染2件、性的接触(同性間)1件であった。

ウイルス性肝炎 1件 C型で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(性別不明)であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 B群で、血液から菌が分離・同定された。推定感染経路は創傷感染である。

後天性免疫不全症候群 6件 無症候キャリア4件、AIDS2件。無症候キャリアの年齢は20歳代2件、30歳代1件、60歳代1件、AIDS患者の年齢は40歳代2件である。推定感染地は国内5件、不明1件、推定感染経路は性的接触4件(同性間3件、異性間1件)、不明2件であった。

梅毒 1件 早期顕症梅毒Ⅱ期。推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間)であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件 耐性遺伝子はVanCで、血液から菌が分離・同定されている。

風しん 1件 検査診断例で、年齢は30歳代、風しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

麻しん 1件 麻しん(検査診断例)で、年齢は5歳未満、麻しん含有ワクチン接種歴は1回であった。

※第47週該当分として、五類 後天性免疫不全症候群 1件(無症候キャリア)の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2010年48週

定点種別	対象疾患	2010年					報告医療機関数	定点医療機関数
		45週	46週	47週	48週	(定点当たり)		
小児科	RSウイルス感染症	60	39	75	94	0.63	149	150
	咽頭結膜熱	51	39	54	84	0.56		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	250	294	275	352	2.36		
	感染性胃腸炎	1,342	1,899	2,003	2,652	17.80		
	水痘	156	141	199	236	1.58		
	手足口病	72	34	27	25	0.17		
	伝染性紅斑	50	48	84	82	0.55		
	突発性発しん	64	73	83	88	0.59		
	百日咳	9	2	0	3	0.02		
	ヘルパンギーナ	17	11	11	6	0.04		
	流行性耳下腺炎	82	71	59	71	0.48		
	不明発しん症(注1)	7	16	9	10	0.07		
MCLS(川崎病)(注1)	3	3	1	1	0.01			
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	107	143	172	219	0.76	288	290
眼科	急性出血性結膜炎	0	1	5	1	0.03	39	39
	流行性角結膜炎	18	26	26	27	0.69		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	1	0	1	1	0.04	23	25
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	21	20	17	15	0.65		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	1	2	1	0.04		

2010/12/8集計

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病)は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・咽頭結膜熱の定点当たり報告数は2週連続して増加した。感染症法施行(1999年)以来、同時期としては最も多く、今後の推移に注意が必要である。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加した。過去5年平均の同時期と比較して多い。
- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数は7週連続して増加し、警報の基準となる、20人/定点を超えた保健所の管内人口の合計が、東京都全体の30%を超えた。感染症法施行(1999年)以来、2番目に早い警報発令であり、注意が必要である。
- ・伝染性紅斑の定点当たり報告数は微減した。しかし過去5年平均と比較して高い値で推移している。
- ・マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は微減した。しかし過去5年平均の同時期と比較して多い。

(定点医療機関からのコメント)

- 中野区保健所管内定点医療機関
- ・感染性胃腸炎:5歳児1名、激しい水様便と発熱があり、アデノウイルス陽性
- 板橋区保健所管内定点医療機関
- ・感染性胃腸炎:5歳児1名、ノロウイルス検出

※ インフルエンザに関するコメントは13頁にまとめて記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2010年48週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	13			16	3			2		
～11か月	19	3	1	159	11	1		40		
1歳	37	7	10	369	33	7	1	43	1	1
2歳	18	13	8	287	38	3	3			
3歳	6	18	28	262	51	2	8	2		
4歳	1	12	44	290	14	6	16			
5歳		13	54	207	36	2	21			
6歳		7	44	178	15	1	11			1
7歳		5	45	133	12	2	11	1		2
8歳		3	31	92	12		5			
9歳		1	29	85	4	1	3			1
10～14歳		2	34	230	6		3			
15～19歳			4	45						
20～29歳			20	299	1				2	1
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	94	84	352	2652	236	25	82	88	3	6
先週比	19	30	77	649	37	-2	-2	5	3	-5

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月						1
～11か月		1		2		
1歳		5		4		
2歳	3	1		8		
3歳	6		1	14		
4歳	8	3		15		2
5歳	15			11		1
6歳	9			24		1
7歳	6			15		1
8歳	4			9		3
9歳	2			15		
10～14歳	15			31		
15～19歳				7		1
20～29歳	3			15		3
30～39歳				19	1	6
40～49歳				14		6
50～59歳				7		
60～69歳				5		
70～79歳				3		2
80歳以上				1		
合計	71	10	1	219	1	27
先週比	12	1		47	-4	1

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2010年48週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		1
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		
30～39歳	1	
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	1	1

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2010年48週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田	1	4		22						
中央区			2	44	1			2		
みなと	4	7	10	91	14	1		6		
新宿区	5	3	14	57	8	3	5	1		
文京	1		2	56	6	2	3	1	1	
台東	5	5	1	69	1		1	5		
墨田区	1		8	21	5			1		
江東区	2	4	16	176	12			8		
品川区	1	2	14	110	8	2	2	3		1
目黒区	4			43			1	1		
大田区	1	8	32	176	10	3	4	2	1	
世田谷		1	17	132	12	1	6	1		
渋谷区	1			47	1		1			
中野区	3	2	9	125	1		1	2		
杉並	3	4	4	97	1		5	3		
池袋	2			41		1		2		
北区		1	2	101	3		2	4		
荒川区	12	10	4	35	2		2	3		
板橋区		1	4	61	5	1	1			
練馬区	5		11	83	14	2	7	4		
足立		12	26	103	7	1		4		
葛飾区	1		2	74	8	1	7	3		
江戸川	3	4	49	112	4		9	5		
八王子市	10	1	27	167	13	2	9	5		
西多摩	3	1	3	79	15		1			
南多摩	4	3	12	40	2	1	1			1
町田	2	2	34	147	16			10		4
多摩立川			5	33	14		1	3	1	
多摩府中	7	4	20	110	17	1	4	2		
多摩小平	13	5	24	200	34	3	9	7		
島しょ					2					

東京都合計	94	84	352	2,652	236	25	82	88	3	6
-------	----	----	-----	-------	-----	----	----	----	---	---

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2010年48週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区	3			1		
みなと	5			6		
新宿区				2		1
文京				3		2
台東				8		
墨田区		2		9		
江東区	2			7		2
品川区	2			36		
目黒区						1
大田区	5	2		12		1
世田谷	2			3		1
渋谷区				3		
中野区				2		1
杉並	2			12		1
池袋	2					
北区		1		14		
荒川区	3			6		1
板橋区	1			3		
練馬区	8			8		
足立	2			6	1	2
葛飾区	2	1	1	8		
江戸川	2			7		2
八王子市	6	1		8		4
西多摩	1			9		
南多摩	3			5		
町田	3	3		7		
多摩立川	1			9		
多摩府中	2			6		3
多摩小平	5			14		5
島しょ	9			5		

東京都合計	71	10	1	219	1	27
-------	----	----	---	-----	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと	1	
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		1
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	1	1
-------	---	---

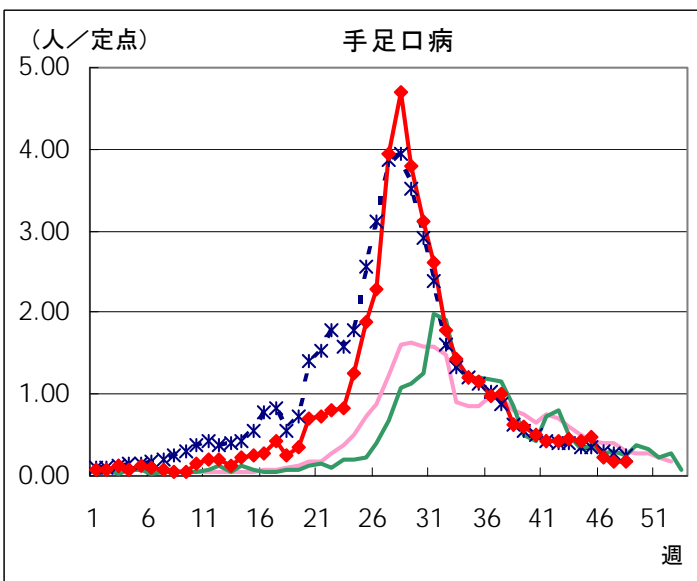
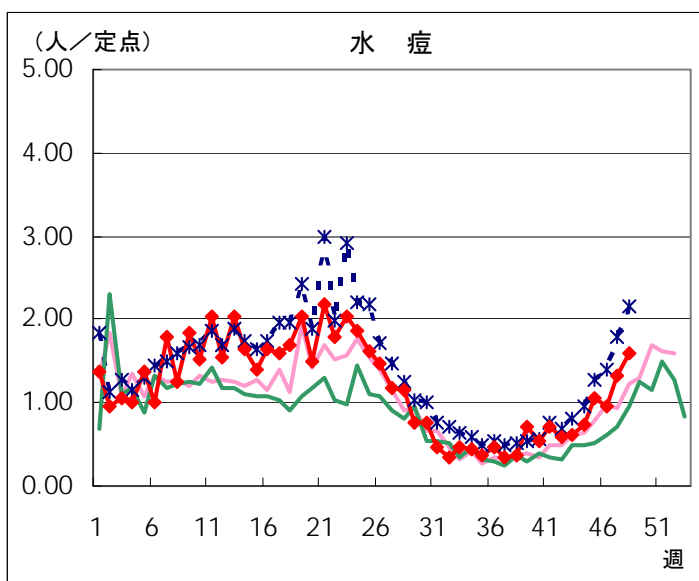
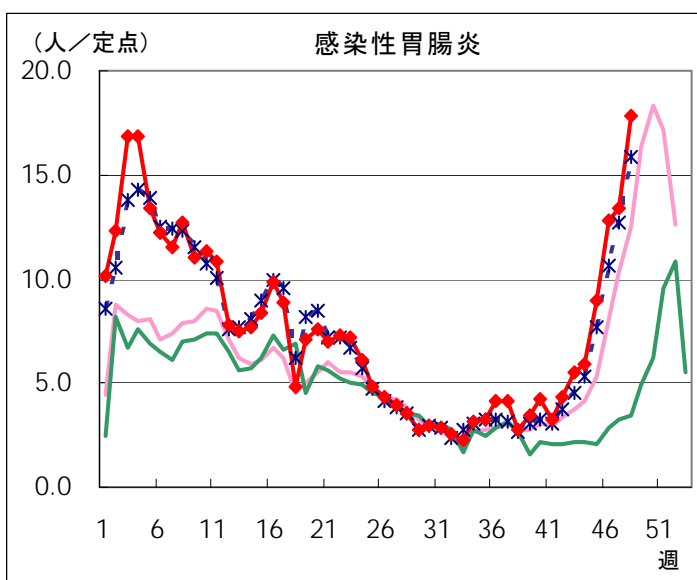
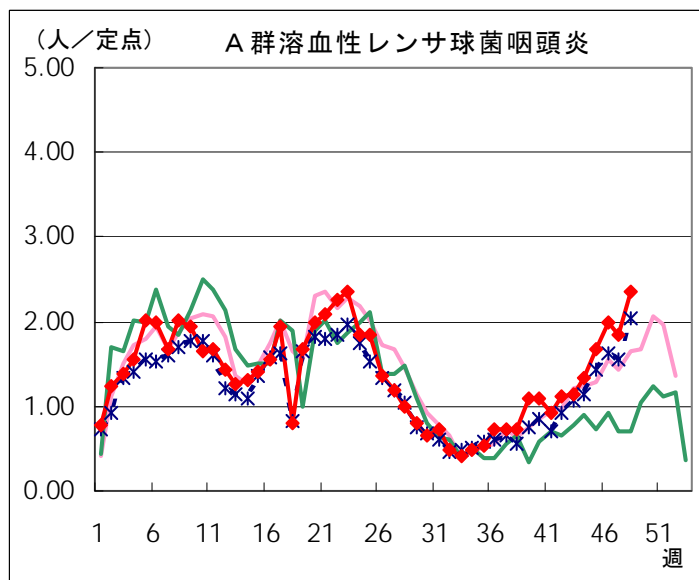
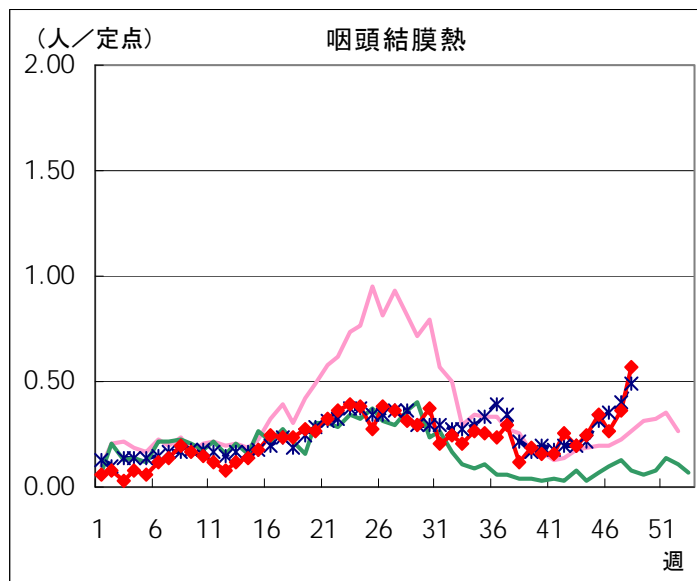
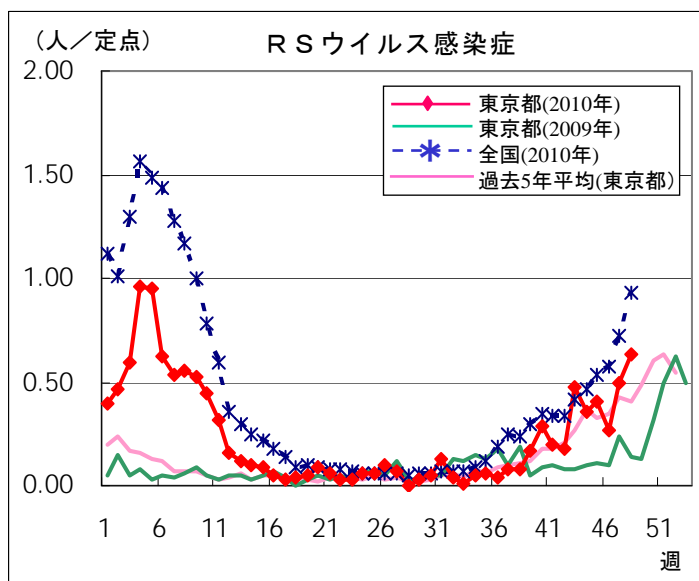
定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2010年48週

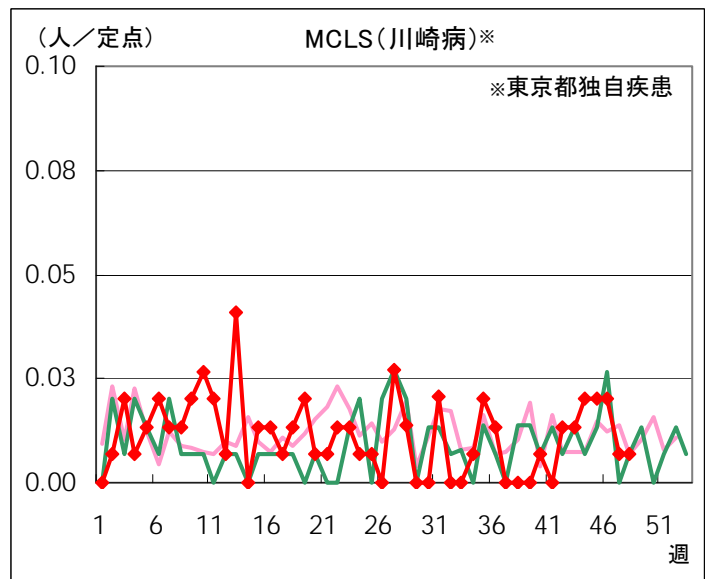
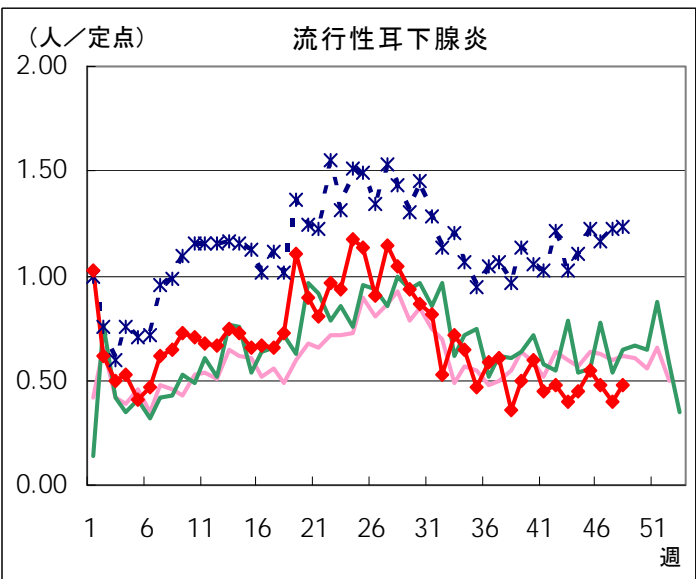
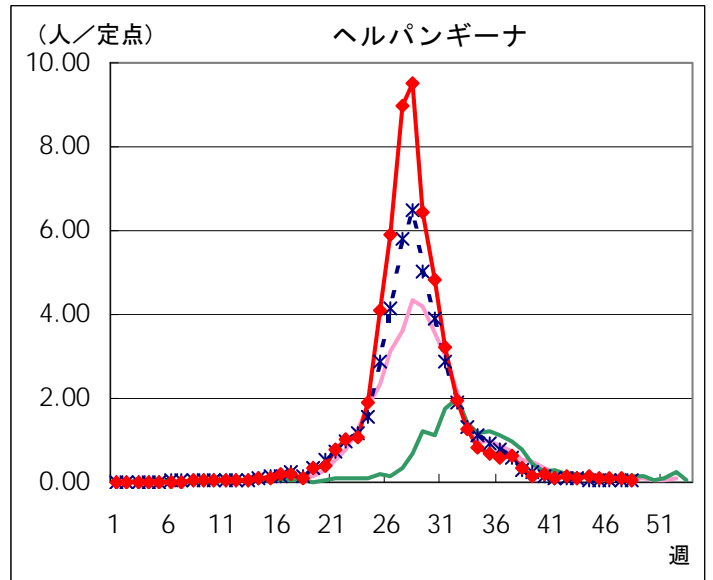
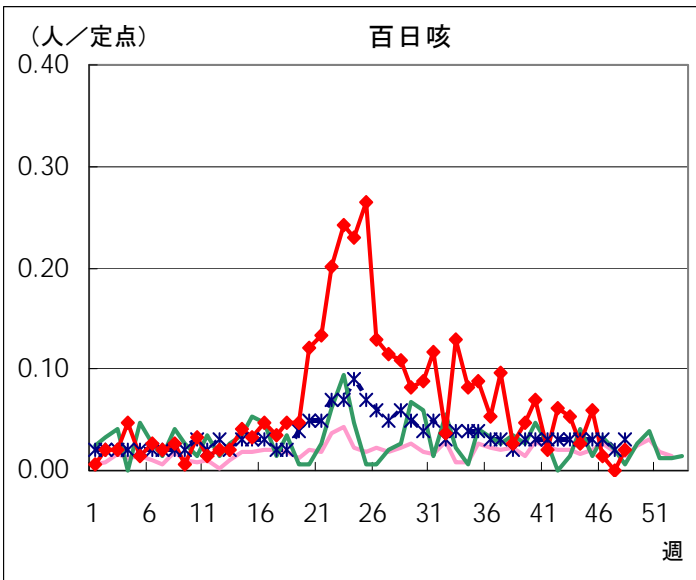
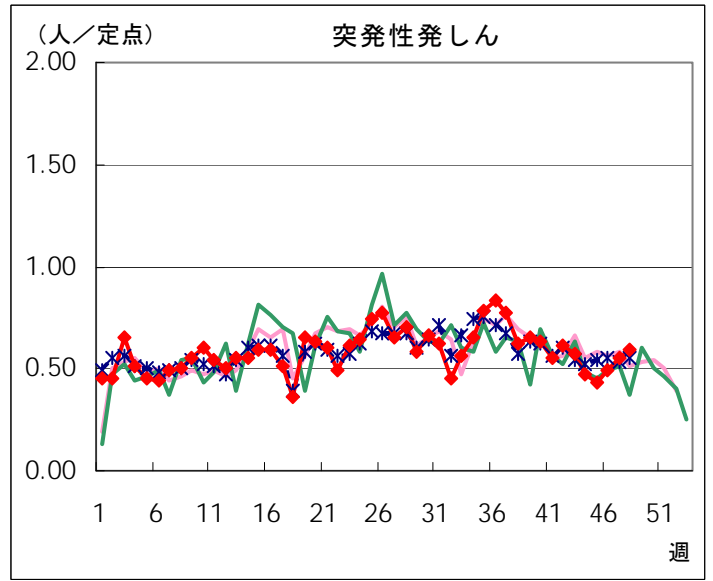
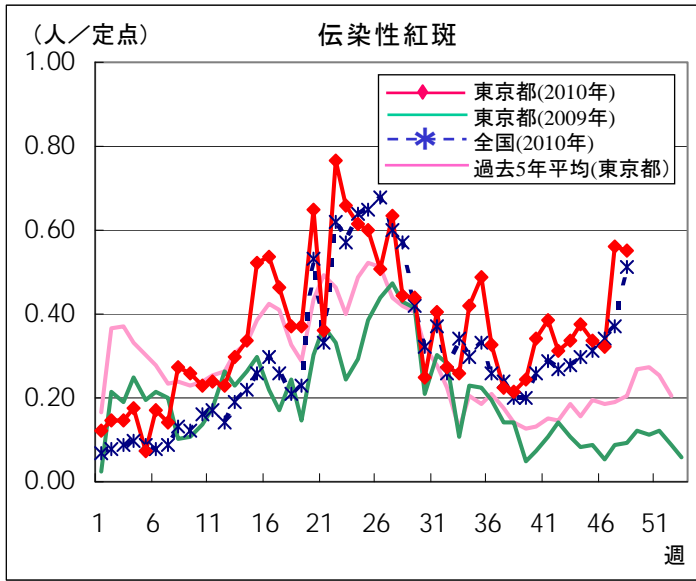
定点種別	小児科									
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田	0.33	1.33		7.33						
中央区			0.67	14.67	0.33			0.67		
みなと	0.67	1.17	1.67	15.17	2.33	0.17		1.00		
新宿区	0.83	0.50	2.33	9.50	1.33	0.50	0.83	0.17		
文京	0.33		0.67	18.67	2.00	0.67	1.00	0.33	0.33	
台東	1.67	1.67	0.33	23.00	0.33		0.33	1.67		
墨田区	0.33		2.67	7.00	1.67			0.33		
江東区	0.50	1.00	4.00	44.00	3.00			2.00		
品川区	0.17	0.33	2.33	18.33	1.33	0.33	0.33	0.50		0.17
目黒区	1.33			14.33			0.33	0.33		
大田区	0.11	0.89	3.56	19.56	1.11	0.33	0.44	0.22	0.11	
世田谷		0.13	2.13	16.50	1.50	0.13	0.75	0.13		
渋谷区	0.25			11.75	0.25		0.25			
中野区	0.50	0.33	1.50	20.83	0.17		0.17	0.33		
杉並	0.50	0.67	0.67	16.17	0.17		0.83	0.50		
池袋	0.50			10.25		0.25		0.50		
北区		0.25	0.50	25.25	0.75		0.50	1.00		
荒川区	6.00	5.00	2.00	17.50	1.00		1.00	1.50		
板橋区		0.17	0.67	10.17	0.83	0.17	0.17			
練馬区	0.83		1.83	13.83	2.33	0.33	1.17	0.67		
足立		2.40	5.20	20.60	1.40	0.20		0.80		
葛飾区	0.25		0.50	18.50	2.00	0.25	1.75	0.75		
江戸川	0.60	0.80	9.80	22.40	0.80		1.80	1.00		
八王子市	2.50	0.25	6.75	41.75	3.25	0.50	2.25	1.25		
西多摩	0.60	0.20	0.60	15.80	3.00		0.20			
南多摩	1.00	0.75	3.00	10.00	0.50	0.25	0.25			0.25
町田	0.50	0.50	8.50	36.75	4.00			2.50		1.00
多摩立川			0.83	5.50	2.33		0.17	0.50	0.17	
多摩府中	0.70	0.40	2.00	11.00	1.70	0.10	0.40	0.20		
多摩小平	2.17	0.83	4.00	33.33	5.67	0.50	1.50	1.17		
島しょ					2.00					
東京都	0.63	0.56	2.36	17.80	1.58	0.17	0.55	0.59	0.02	0.04

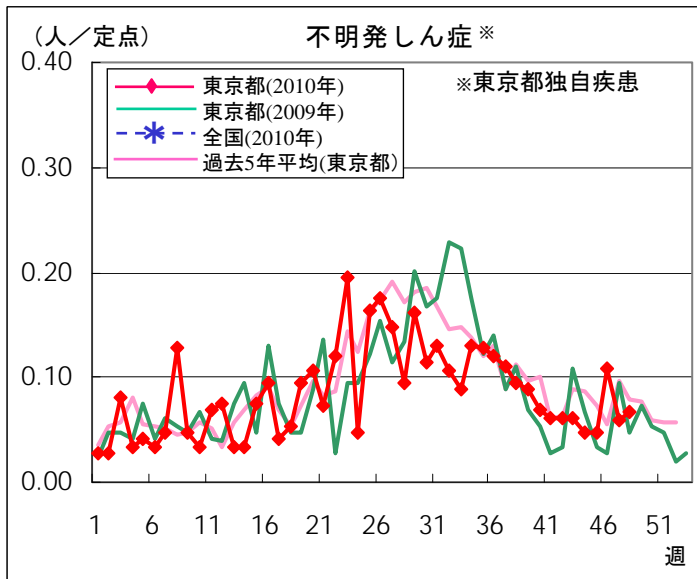
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区	1.00			0.25		
みなと	0.83			0.75		
新宿区				0.22		0.50
文京				0.60		2.00
台東				1.60		
墨田区		0.67		1.50		
江東区	0.50			0.78		2.00
品川区	0.33			3.60		
目黒区						1.00
大田区	0.56	0.22		0.75		0.50
世田谷	0.25			0.19		0.50
渋谷区				0.50		
中野区				0.22		1.00
杉並	0.33			1.00		1.00
池袋	0.50					
北区		0.25		2.00		
荒川区	1.50			1.50		1.00
板橋区	0.17			0.25		
練馬区	1.33			0.62		
足立	0.40			0.50	0.50	1.00
葛飾区	0.50	0.25	0.25	0.89		
江戸川	0.40			0.58		1.00
八王子市	1.50	0.25		0.80		2.00
西多摩	0.20			1.00		
南多摩	0.75			0.56		
町田	0.75	0.75		0.78		
多摩立川	0.17			0.69		
多摩府中	0.20			0.29		1.00
多摩小平	0.83			1.00		2.50
島しょ	9.00			2.50		
東京都	0.48	0.07	0.01	0.76	0.03	0.69

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2010年48週現在

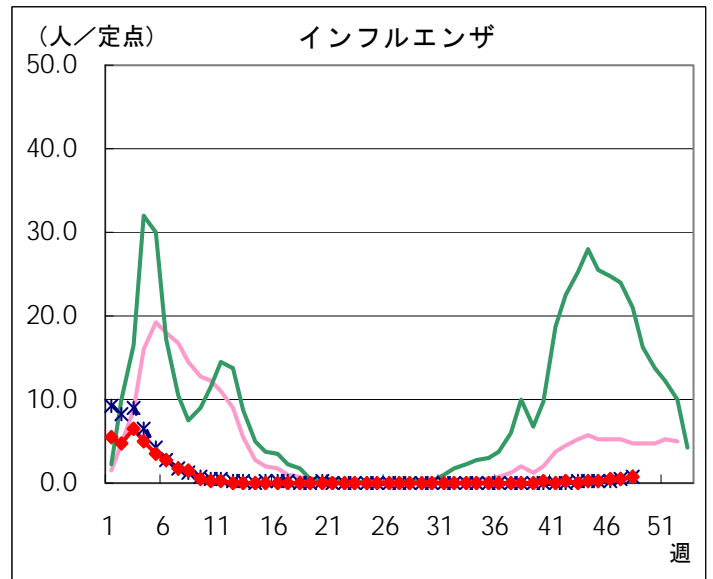
◆ 小児科定点



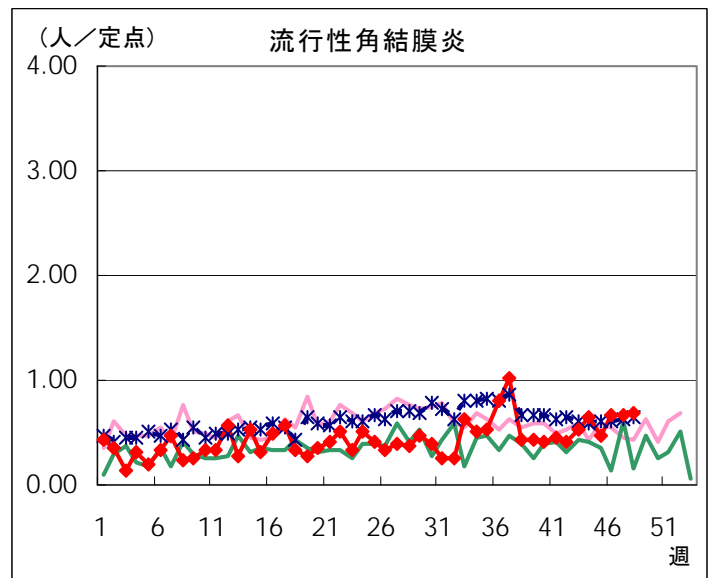
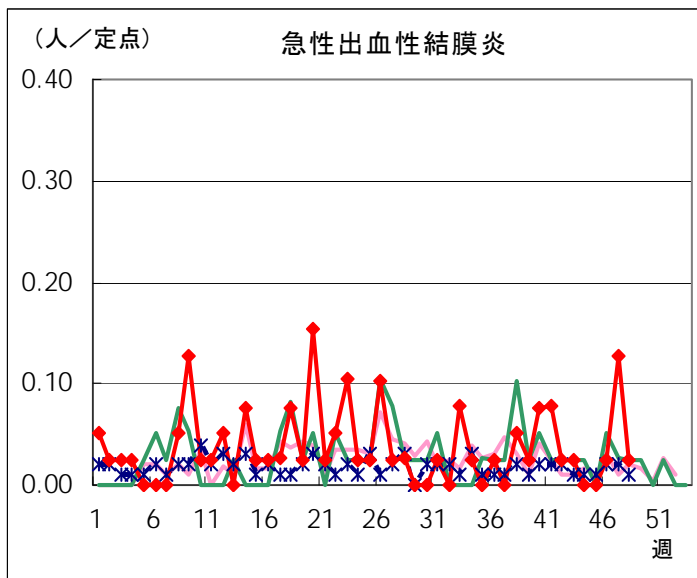




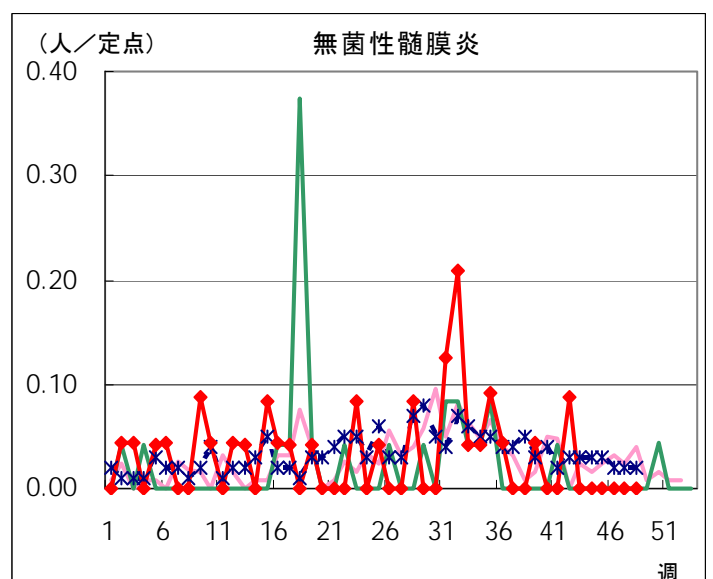
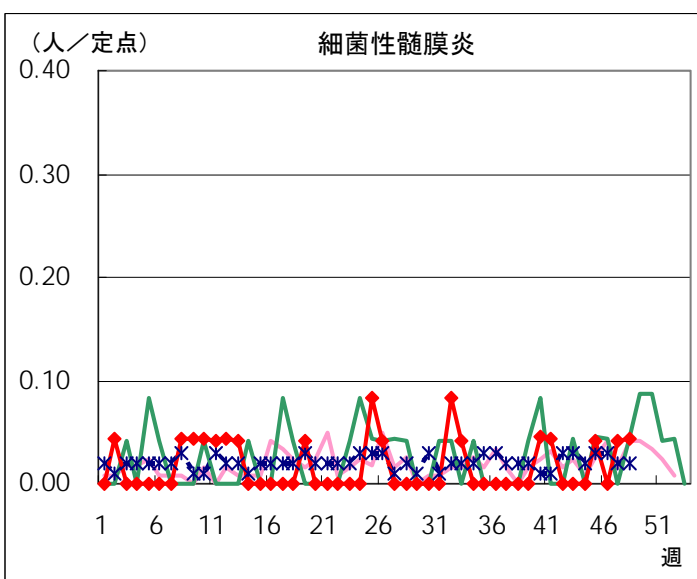
◆ インフルエンザ定点

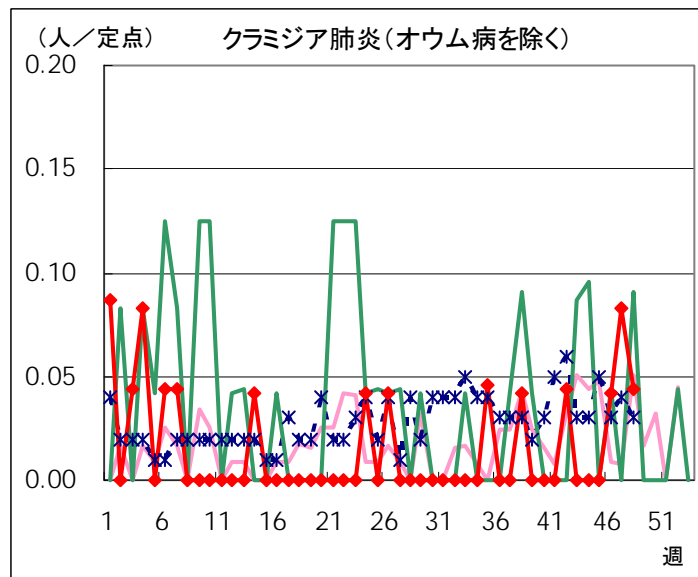
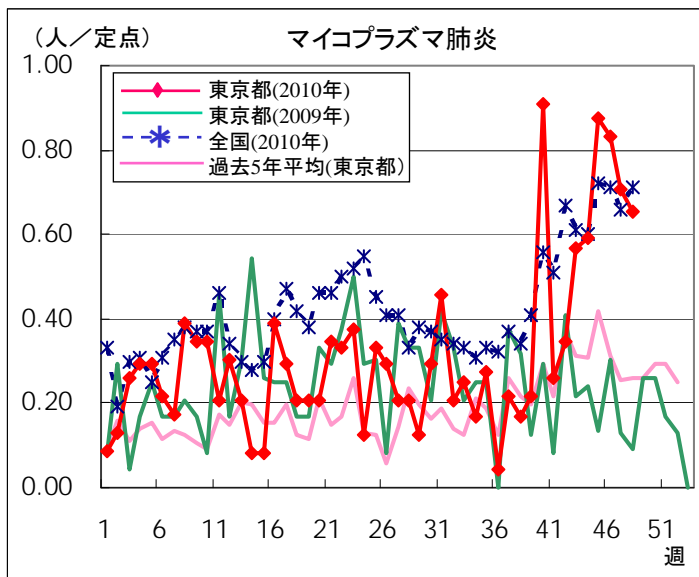


◆ 眼科定点

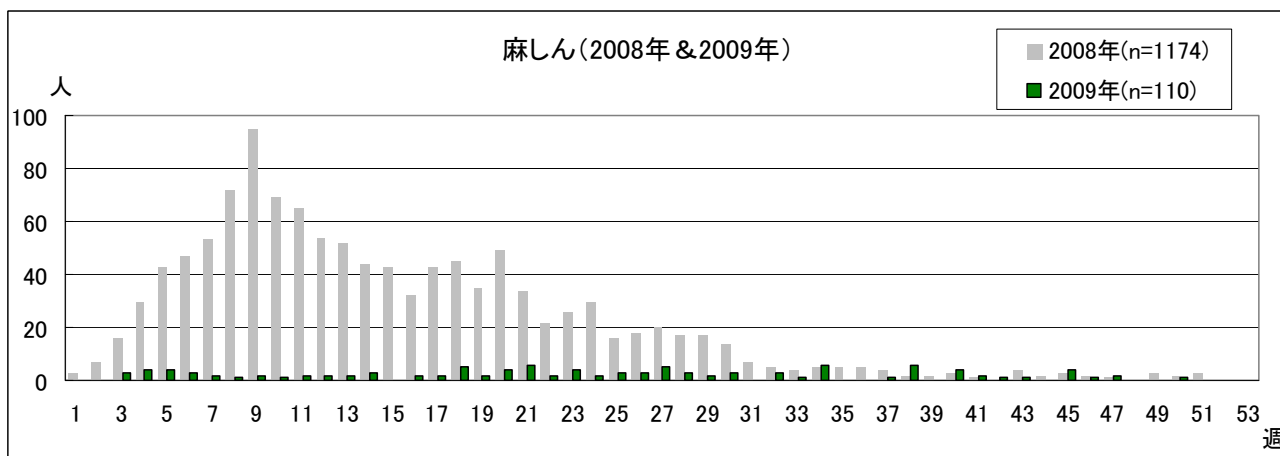
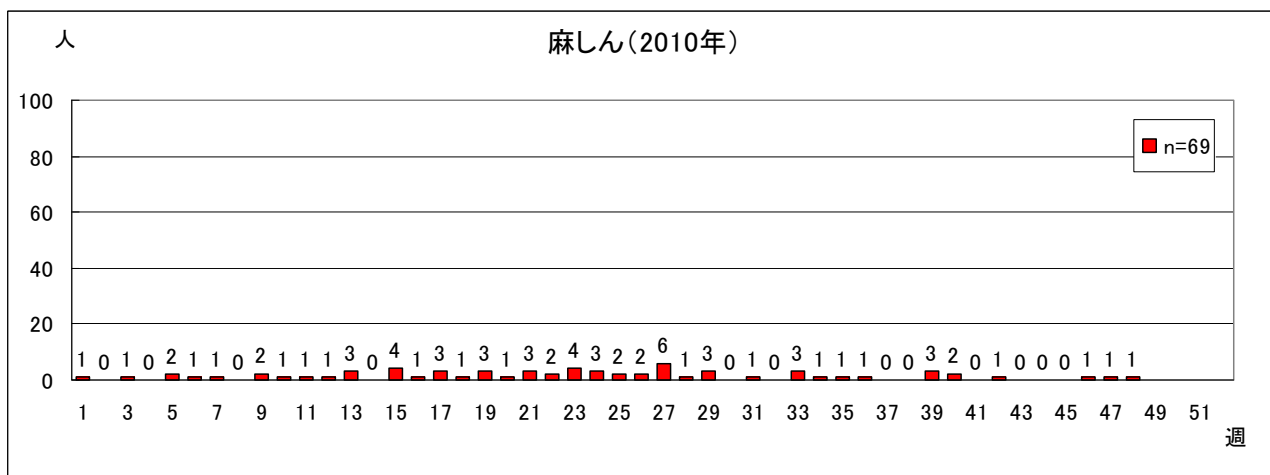


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2010年48週現在



定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果等に関わるコメントをいただきましたので、コメントのあった医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
台東区	2		兄弟で発症
	5		
	1		
江東区		1	
	1		
		1	
品川区	2		
	4		
	13		
	3		
大田区	4		
渋谷区	2		
中野区	2		
北区	1		
西多摩	1		7歳児、家族からの感染とみられます。
	8		
	1		
多摩立川	1		

定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
11/4	百日咳	8M	咽頭拭い液	百日咳菌	遺伝子 分離同定
				メチシリン感受性黄色ブドウ球菌 (コアグラーゼ: V型) 感受性は①参照	菌型 分離同定 薬剤感受性
11/16	肝機能障害	7M	尿	ライノウイルス	遺伝子
11/17	肺炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
11/17	肺炎	1	咽頭拭い液	肺炎球菌	
11/18	咽頭炎	7	咽頭拭い液	アデノウイルス	
11/18	咽頭炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、RSウイルス	
11/18	胃腸炎	0	糞便	ライノウイルス、ノロウイルス	
11/19	百日咳	7M	後鼻腔拭い液	百日咳菌	
11/20	ウイルス性胃腸炎	14	糞便	ライノウイルス、ノロウイルス(G II)	遺伝子
11/22	クループ	8M	咽頭拭い液	アデノウイルス、ライノウイルス RSウイルス	
11/22	不明発しん症	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
11/22	下気道炎・胃腸炎	11M	直腸拭い液	アデノウイルス、ノロウイルス サポウイルス、エンテロウイルス	
			咽頭拭い液	RSウイルス	
11/23	急性咽頭炎	9	鼻汁	アデノウイルス	
11/24	嘔吐下痢症	3M	糞便	ライノウイルス	
11/24	気管支炎・肺炎	8M	鼻汁	RSウイルス	
11/24	百日咳	8	咽頭拭い液	百日咳菌	遺伝子 分離同定
11/24	百日咳	2M	後鼻腔拭い液	百日咳菌	
11/24	インフルエンザ	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス	遺伝子
11/25	感染性胃腸炎	5	糞便	ノロウイルス(G II)	
11/25	不明発しん症	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
11/25	毒素性ショック症候群	3	菌株(皮膚病巣)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (コアグラーゼ: I 型) 感受性は②参照	菌型 薬剤感受性
11/26	不明発しん症	2	咽頭拭い液	アデノウイルス	遺伝子
11/30	咽頭扁桃炎	8	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌	

薬剤感受性検査結果 : メチシリン感受性黄色ブドウ球菌①・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌②

参照番号	CEZ	CTX	IPM	EM	CAM	GM	VCM	MINO	OFLX	ABPC	MPIPC
	セファンゾリン	セフトキシム	イミペネム	エリスロマイシン	クラリスロマイシン	ゲンタマイシン	バンコマイシン	ミノサイクリン	オフロキサシン	アンピシリン	オキサシリン
①	s	s	s	s	s	s	s	s	s	s	s
②	s	s	s	R	R	R	s	s	s	R	R

s:感性(感受性), I:中等度, R:耐性

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型

検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型*)
47週	0	3	0	1
2010-2011年 シーズン累計**	0	26	3	7

* : 新型インフルエンザ (pandemic H1N1 2009)。

** : 2010-2011シーズンの開始は第36週 (2010年9月6日～9月12日)。

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2010年							
		40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週
ウイルス	アデノウイルス	5		1	3	2	10	12	9
	ライノウイルス	2	5		2	8	10	3	5
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	8	8	6	11	3	3	4	2
	単純ヘルペスウイルス	1					1	1	
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	2	1	5	2	2	2	3	
	EBウイルス	2	2	4	1	1			
	サイトメガロウイルス					1		2	
	ムンプスウイルス			1	3	1			
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19			2	2	1		1	
	RSウイルス		3	2	5	3	7	2	4
	ノロウイルス	1	1	1	3		2		4
	ロタウイルス								
インフルエンザウイルスAH1									
インフルエンザウイルスAH3	2		4	2	3	8	3	3	
インフルエンザウイルスB	1						2		
新型インフルエンザウイルスAH1pdm				1		2	1	1	
デングウイルス(抗体を含む)	2					3			
その他のウイルス								1	
細菌	カンピロバクター		1						
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								1
	百日咳	1		3	1		2	4	4
	マイコプラズマ	3			2	3		1	
	その他の細菌	1		1	2		3	1	3
その他の病原体							1		

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2010年40週～2010年47週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	40	48	111	33	18	6	11		3	8	22	5					88	
ウイルス	アデノウイルス	2	10	10		5	5				5						5	
	ライノウイルス		4	16	6						1	3	1				4	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	5	10	12	3	4			2		2						7	
	単純ヘルペスウイルス		2					1										
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7			1						1	11							4
	EBウイルス		1			1							3					5
	サイトメガロウイルス											3						
	ムンプスウイルス					2							3					
	麻疹しんウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19										4	2						
	RSウイルス		4	19						1								2
	ノロウイルス				11													1
	ロタウイルス																	
	インフルエンザウイルスAH1																	
インフルエンザウイルスAH3	25																	
インフルエンザウイルスB	3																	
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	5																	
デングウイルス(抗体を含む)																	5	
その他のウイルス																	1	
細菌	カンピロバクター				1													
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌		1															
	百日咳		1	11													3	
	マイコプラズマ			8													1	
	その他の細菌			9													2	
その他の病原体			1															

<感染症豆知識>

RS ウイルス感染症

RS ウイルス (Respiratory Syncytial Virus) はパラミキソウイルスに属する RNA ウイルスで、感染細胞が合胞体 (syncytium) を形成するため名づけられた。全年齢層に急性の呼吸器感染症を生じ、特に 2 歳以下の乳幼児に重篤な細気管支炎を起こす重要な病原体で、5 類感染症定点把握疾患である。

流行は10月～3月で、12月にピークとなる。6カ月未満児は、母体の移行抗体があるにも関わらず感染し重症となる。小児は2歳までに100%罹患し、その後生涯再感染を繰り返すが、重症は少ない。合併症として脳炎やADH分泌異常症候群 (SIADH) がある。潜伏期間は2～8日、ウイルスの排泄期間は3～8日であるが、乳幼児や免疫不全者では3～4週間続くことがある。重症となり入院する数は年間2～3万人とされる。細気管支炎罹患後に長期に肺機能の異常と喘鳴を繰り返し、喘息を発症することが多い。有効なワクチンはまだ開発されていない。ヒト血清由来の抗RSV-F蛋白単クローン抗体のパリビズマブ(シナジス) はRSVの下気道疾患の予防薬である。1998年、米国のImpact-RSV Study Groupは、35週以下の早期産児、慢性肺疾患既往の1,500人の乳幼児を対象にパリビズマブを30日毎に5回筋注し、非投与群に比べて入院が10.6%から4.8%に減少したと報告した。本邦では2002年から在胎期間35週以下の早産児および気管支肺異形成症児に使用され、2005年から血行動態に異常がある先天性心疾患児にも保険適用されている。診断には免疫クロマト法による迅速ウイルス抗原検出キットが用いられ、感度・特異度ともに高く有用であるが、保険適用は入院中の患者に限られており、重症化防止のために外来での適応を検討して欲しいとの小児科医の要望がある。

(文責 くろさわ子ども&内科クリニック 黒澤サト子)